

会員向け啓発事業

■ 令和5年度 先進事例等視察

令和5年11月9日（木）に会員11名と事務局3名の合計14名で東京ガス扇島 LNG 基地（神奈川県横浜市鶴見区扇島4-1）を視察しました。

扇島 LNG 基地は神奈川県扇島に有り、首都圏の都市ガス需要に応えるため1998年に創業を開始した LNG 基地で、隣接する発電所（扇町パワーステーション）と共に首都圏の都市ガスと電力供給に貢献してきた施設です。

LNG（Liquefied Natural Gas）とは「液化天然ガス」のことで、メタンを主成分とした天然ガスを冷却し液体にしたものです。都市ガスの元になります。マイナス162℃まで冷却すると天然ガスの体積が600分の1まで減少し、大量貯蔵や輸送がしやすいエネルギーです。また、石油や石炭など、ほかの火力発電の燃料に比べてCO₂（二酸化炭素）やNO_x（窒素酸化物）などの発生量が少なく、さらにススをはじめとした微粒子の発生もほとんど無く環境にやさしいエネルギーとなっています。

上記のマイナス162℃の状態とススが出ない事は、現地での冷熱実験で体験できます。ゴムボールがLNGの液体によりハンマーで砕けてしまうほどに硬くなってしまふ事や、蠟燭の炎と比べてススが出ない事を見る事が出来ました。

扇島 LNG 基地の特色としては周囲を航行する船の妨げにならない様に、栈橋と基地との間に配管橋を設置しないシーバース形式の LNG 受入施設を設けています。その為、受入れた LNG を輸送するため地下にシールドトンネルを設置しています。シールドトンネルはマイナス162℃の LNG が流れる為、配管は熱収縮変異を吸収する様ループしています。

また、安全性や周囲環境との調和や敷地の有効活用の観点から完全埋没型の覆土式地下タンクを設置し構内緑化にも力を入れています。

他にも、漏れた時に直ぐにわかる様に無味無臭のガスにわざと臭いを付けたり、マイナス162℃の LNG を気体に戻すのに海水を使いまったく火を使わない事や、火力発電所の扇町パワーステーションの運転・監視を共同にする事で人員の省力化も図っている点等、あらゆる面で環境にやさしい取組をしている施設と感じました。

日本山村硝子(株) 中村



実施日：令和5年11月9日（木） 場所：東京ガス扇島 LNG 基地 参加者：会員8社11名

■ 令和5年度 環境セミナー

「カーボンニュートラルと地域企業の対応<事業環境の変化と取組の方向性>」

相模原市との共催により、2050年脱炭素社会の実現に向けた取組の促進を図るため、経済産業省より講師をむかえ、カーボンニュートラルに関する最新の国の施策等に関するセミナーを開催しました。

実施日：令和6年2月19日（月）
会場：エコパークさがみはら
相模原の環境をよくする会公式 YouTube チャンネル
参加者：現地会場14名、オンライン17名（最大同時接続数）
講師：経済産業省 関東経済産業局 資源エネルギー環境部
カーボンニュートラル推進課

